資料３

平成 20 年 5 月 29 日
第３回　中活基本計画評価専門委員会

平成１９年度　認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告
（案）

平成２０年　６月　日
長野県長野市

Ⅰ．総括

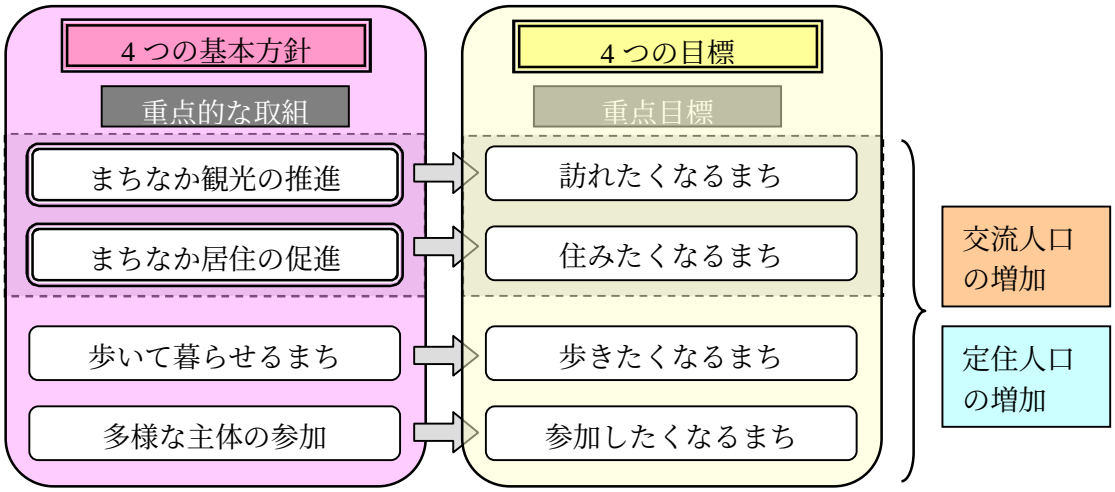
長野の歴史・文化・伝統を今に伝え、県都として経済・社会・文化・生活活動の中心である中心市街地は、市民にとって欠かせないまちである。中心市街地の活力が低下することは、「長野の独自性（長野らしさ）」を失うことにつながる。

また、これからの社会は、人口減少・超少子高齢社会が深刻化している中、まちづくりにおいても新しい時代を見据え、社会情勢の変化に的確に対応した新たなまちづくりのビジョンが必要になってくる。そこで、今までの取組の成果と問題点を検証し課題を整理するため、旧基本計画の事後評価を行った。それらの課題を踏まえ、総合的で一体的なまちづくりを推進するための仕掛け・仕組みづくりを行っていくものとし、新基本計画を策定した。

新基本計画のテーマを『門前都市「ながの」』～心潤う　歴史と文化が賑わう　まち～とし、基本的な方針に「まちなか観光の推進」「まちなか居住の促進」「歩いて暮らせるまち」「多様な主体の参加」の４つを掲げた。

そして、それらに沿った目標をそれぞれ「訪れたくなるまち」「住みたくなるまち」「歩きたくなるまち」「参加したくなるまち」とし、様々な事業を位置付け、中でも「まちなか観光の推進」と「まちなか居住の促進」を重点的に取り組むことにより、交流人口と定住人口の創出による中心市街地の活性化を目指している。

また、４つの目標のうち、目標①「訪れたくなるまち」②「住みたくなるまち」を重点目標とし、その効果増進に資する副次的目標として③「歩きたくなるまち」④「参加したくなるまち」を位置づけた。



目標①	国宝善光寺の門前町として、個性あるまちの魅力や地域資源を大切にした、歴史と未来を感じる**「訪れたくなるまち」**
目標②	長野の魅力である豊かな自然と歴史、都市機能が一体となった、潤いと利便性が共存する**「住みたくなるまち」**
目標③	市民の誇りであり長野の「顔」として、様々な機能と連携し、まちの活力・文化・歴史を物語る、善光寺表参道を軸とした**「歩きたくなるまち」**
目標④	オリンピック等で培ったボランティア精神を継承しつつ、多様な市民活動を育むことにより、新たな文化を創造し、賑わいの絶えない**「参加したくなるまち」**

全体目標達成に向けて、旧基本計画に基づき善光寺表参道を中心に整備を進めてきたいくつかの集客・利便拠点の更なる機能増進、各拠点を善光寺表参道を軸に「点」から「線」、更に回遊（快遊）性を高めることで、「線」から「面」へとまちを育むことを中心市街地活性化に向けた新たな戦略とした。

この戦略は、基軸である善光寺表参道で実施される「中央通り歩行者優先道路化事業」を中心に「線」の実現に取り組み、それに合わせて様々な事業につなげていくことで「面」の実現を目指すものである。

計画初年度である 19 年度は、この基軸事業である「中央通り歩行者優先道路化事業」の社会実験を春、秋と 2 回行ったほか、年間を通して、表参道ふれ愛通り実行委員会、中央通り活用勉強会を開催し、実現に向けた課題の整理と検討を重ねてきた。また、それらに関連する道路、まちなみ環境の整備など実施した。

また、基本計画に位置付けた事業は、認定当初 49 事業であったが、1 事業を追加し 50 事業に変更し、1 事業を拡大したほか、当初、「国の支援がないその他の事業」に位置付けられていた事業のうち 8 事業を「認定と連携した特例措置に関連する事業」に変更し、積極的に国の支援策を活用しながら事業の展開を図った。全 50 事業のうち、47 事業については調査・研究も含めて着手し、事業の取組自体は予定通り実施に至っているため進捗状況としては概ね評価できる。

本計画の中核的事業である中央通り歩行者優先道路化事業の実現化を中心に、着実かつ確実に事業を推進し、数値目標の達成に向けて最大限努力し、今後、現行の取組を確実に実行していくため、庁内の総合調整会議幹事会を始め、民間の事業主体や中心市街地活性化協議会との連携を図り、円滑な事業推進を目指す。